

## 佐倉市補助金検討委員会（第1回）会議録

日時	平成 26 年 1 月 28 日（火）15 時～	場所	佐倉市役所 1 号館 3 階会議室
出席者	委員：淡路委員、小口委員、清水委員、山崎委員、吉見委員（五十音順）		
	事務局	福山企画政策部長          小川財政課長 蜂谷主幹      小林主査      塩浜主査補      田中主査補	
	その他	傍聴者 2 名	
内 容			
<p><b>（1） 会議及び資料の公開に関する決定</b></p> <p>①会議は原則公開とする。</p> <p>②会議録は、詳細が多岐にわたることから要録とする。</p> <p>③会議録は市政資料室及び佐倉市ホームページで公表することとする。</p> <p>④会議は要録作成のため録音することとする。</p> <p><b>（2） 議事</b></p> <p><b>1. 委員長及び委員長職務代理の選任</b></p> <p>互選の結果、小口委員が委員長に、清水委員が委員長職務代理に選任される</p> <p><b>2. 補助金検討の概要について</b></p> <p>（委員長）</p> <p>補助金検討の概要について事務局に説明を求めます。</p> <p>（事務局説明）</p> <p>1. 財政状況について 【資料1：財政状況説明資料】（小川財政課長）</p> <p>（委員長）</p> <p>総務省の統計資料で経常収支比率を見たら 98.9%でした。今日の説明だと 93.0%ということですが、どちらが正しいのですか。</p> <p>（小川財政課長）</p> <p>こちらの資料を参考にさせていただければと思います。</p> <p>（委員長）</p> <p>佐倉市の財政力はいいですね。財政力指数が 1.0 以上なら財源に余裕があるとされています。全国の町村をみると 0.3 とか 0.4 というところがいっぱいあります。また、公債費負担比率も 12%程度あり、公共施設整備等に先行投資す</p>			

るとこの程度は妥当な数字でしょう。

積立金は、約 140 億円もあり、それに比べて地方債残高は 300 億円程度となっています。これらを見ると財務的には健全な運営をしていると思います。ただ、経常収支比率が 93%となっているのが気にかかります。

佐倉市で心配していることは、人口問題です。社会保障・人口問題研究所資料によると、現在 17 万人程度ですが、後 20 年もすると 14 万人台になります。また、高齢化率も 10%程度あがり、納税人口ともいわれている生産人口は 60%から 53%に下がることとなります。今回の補助金検討委員会は、こういった背景も踏まえての検討としていくことになるでしょう。

(小川財政課長)

24 年度決算までで見ると、佐倉市の財政状況は厳しくないと思われがちですが、今後を考えると、施設の老朽化、学校の耐震化などに多額の経費を要することから、これまでのように借金を減らして基金を増やしていくことは難しいと考えています。

(委員長)

佐倉市は公共施設のファシリティマネジメントも行っており、東京都の武蔵野市、神奈川県の大和市と並んで全国的にも高い評価を受けています。そういった面でも佐倉市は適正な運営をしていると考えています。

(A 委員)

説明資料 4 ページの市税の推移ですが、個人市民税のウェートが高いようです。納税義務者数は増えていくのでしょうか、減っていくのでしょうか。今後どのようなようになっていくと考えていますか。

また、消費税がこの 4 月に 5%から 8%になりますが、佐倉市に入る交付金の増収見込みを伺えますか。

(小川財政課長)

個人市民税については、18 年度に増えていますが、これは制度の変更がありまして、所得税を減らして住民税を増やすという税源移譲が行われたために納税額が増えました。景気の低迷により平均所得が減少し、ここ数年個人市民税も減少傾向にありました。今は景気も上向きですが、高齢化により給与所得から年金所得に代わる人が増えていくので、今後も減少していくと考えています。

消費税については、地方消費税交付金という県からの交付金があり、税収が増えた分だけ入ってきますが、納税期日の関係で来年度への影響は限定的です。

先ほど財政状況の説明の中で普通交付税の話をしました。標準的な行政運営をするための財政需要に対して、収入が足りないか足りるかで交付税がもらえるかどうかが決まりますが、地方消費税交付金が増える分、普通交付税が減ってしまうことも考えられます。市の歳出は消費税の増税分増えるので、消費

税の増税により、市の財政状況が改善されるかといえば、一概にそうとはいえないと考えています。

(A 委員)

ということは、消費税の増税により歳出が増える分、自治体は苦しくなるということですか。

(小川財政課長)

地方交付税の算定上は、消費税の増税により歳出が増えた分も考慮されるので、ただ苦しくなるというわけではありません。

(B 委員)

21 年度から 22 年度にかけて扶助費が大きく伸びていますが、原因はどこにあるのでしょうか。

(小川財政課長)

佐倉市は障害給付関係が一番増えていますが、21 年度から 22 年度にかけて扶助費が大きく伸びたのはこども手当による給付の増です。扶助費は国・県が 3/4 程度をもってくれるので、増えた分のおおむね 1/4、市の持ち出しが増えているということになります。

また表にはありませんが、国民健康保険、介護保険は特別会計で整理していますが、一般会計からの繰出し金が年々増えている現状です。

(事務局説明)

2. 補助金交付の状況 (小林主査)

3. これまでの見直し状況 (小林主査)

【資料 2：佐倉市補助金等交付基準】

【資料 3：佐倉市役所職員共済会補助金交付要綱】

【資料 4：佐倉市における補助金のあり方に関する意見書】

【資料 5：平成 23 年度見直し時補助金点検シート】

【資料 6：補助金検討の概要及び経過について】

【資料 7：平成 25 年度補助金一覧】

(委員長)

ご質問及びご意見はありますか。

(B 委員)

補助金一覧を見ると補助金の名称には助成金、交付金などいろいろな呼び方をしていますが、これは交付基準の区分に従って名称の使い分けをしているのですか。

(小林主査)

補助金の名称については過去からの経緯や、国、県の名称に合わせているといったものもあり、交付基準の区分に従って分類しているわけではありませんが、補助金一覧における補助金、交付金の区分については、交付基準3ページ、分類別交付基準の①が交付金、その他が補助金となっています。

補助金の名称は分類と一致しているわけではありません。

(B 委員)

点検シートについて、合計点に対する基準があるのでしょうか。また、今後の方向性と評価点の関連性がありますか。

(小林主査)

合計点が高い低いというよりは、問題点を洗い出すうえで活用したというのが点検シートの第一義であり、具体的には公益性の点数の低いものを優先的にヒアリングしたという経緯です。今後の方向性については、担当課がどう考えているのか、事務局として把握したいというのが狙いでした。

(B 委員)

満点が26点だが、15点未満が見直し検討になるといったような、そういった使い方はしなかったということですか。

(小林主査)

そうです。

(B 委員)

方向性については、上の点数が何点であろうと、担当課としてはこうしていきたいという希望にチェックをつけているということですか。

(小林主査)

そうです。

(委員長)

この資料は、担当課が自分で採点したものでですか。

(小川財政課長)

担当課の自己点検ですが、財政課確認欄を設け、実態とあまりに違う評価をしているものがないかという確認はしています。

(A 委員)

点検シートですが、参考例で職員共済会補助金が出ていますが、福利厚生は使用者として市長が一定の支出をすることは必要だと思いますが、市民生活への影響についての評価は難しいのではないのでしょうか。

120を超える補助金のすべてを、1つのシートで点検するのは無理があるのではないですか。今度行うときはもうひと工夫が必要ですね。

(委員長)

このシートには客観性がないと思います。第3者が評価したほうが効果的だ

と考えます。

(小川財政課長)

確かにそういう側面はあります。前回の委員会の中では、どの補助金をヒアリングするかという中で、抽出の手段として使用しました。

120以上ある補助金をどう点検するかという中で、今回はこのようにしたという参考例として挙げさせていただきました。

(委員長)

それでは、次回の審議内容を含めて議論していきたいと思います。120を超える補助金を全部議論していくか、それとも各委員が検討を必要とする補助金を抽出して審議していくか整理することが必要となっています。私としては、絞らざるを得ないと考えますがいかがでしょう。

(委員一同)

異議なし

(委員長)

前回の報告書は大変よく整理されています。そこで、この報告書を尊重して審議していくのか、それとも新しいメンバーですので、初めから議論していくのか、ご意見をいただけますか。私としては、前回の報告書をベースに議論を進めた方が、委員会の継続性として妥当だと考えています。

(A委員)

委員長に賛成ですが、交付基準の3ページを見ると、所要額の全額を補助するということが分類で許されています。100%の補助金というのは、補助金というより委託金ではないかと感じます。

また、補助率についても1/2だけでなく3/4、1/4といった補助金があってもいいのではないかと思います。

交付基準の分類を整理することも大事ではないでしょうか。

(委員長)

佐倉市の補助金については、議会で審議し、条例によって交付されているものもあります。委員会としては、これを無視するわけにはいきませんが、補助金の支出に関し、委員会の考え方を提議することはできるでしょう。

補助金交付要綱を見ると、定款等や役員名簿、事業計画書、予算書、交付決定通知、振込依頼書、実績報告書等といった一連の資料があります。これらの資料と交付団体の活動状況を見ながら市としては、評価・改善をおこない、その後指導を進めていくことになっていると考えますが、そういった資料は用意できるのでしょうか。

(小林主査)

担当課がそれぞれの資料を保管しています。そのため、すぐに提供はできま

せんが、実績報告書については、監査に出している資料であるので、速やかな提供が可能です。

(委員長)

前回の意見書において、委員会が指摘した事項についての進捗状況をまとめて委員会に提出してもらいたいと思います。

(小林主査)

前回意見書の9ページ1番下、「佐倉市母子寡婦福祉会補助金」だが、前回委員会の意見として、『公益性の高い補助となるよう、「ひとり親支援」とするなど、課題を整理し、補助対象を見直す必要がある』といった条件を付しているというのがあります。母子寡婦だけでなく父子についても認めるべきではないかという観点から出された意見ですが、成果報告書には、会員の対象を父子家庭まで広げたといったような報告となっています。

委員会として、前回の意見に対する一覧を用意してほしいということであれば、用意します。

(委員長)

成果報告書では読み取りづらいので、見直しの一覧を作成していただきたいと思います。

(小川財政課長)

次回会議までに一覧表を作成します。

(委員長)

事務局には一覧表を作成していただき、各委員に事前に提出していただけますか。各委員はそれを見ていただいて、事務局に資料を要求したり、次回委員会で担当者の意見を聞きたいといった要望をあげてもらいたいと思います。こういった手順で進めていったらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

(A委員)

補助金を所管する担当課を呼ぶということですか。

(委員長)

そうです。担当課の職員が一番理解しているはずですが、話を聞いて質問をして、委員会として意見をまとめていくといった手順ではどうでしょうか。

(小川財政課長)

2回目の会議からヒアリングを進めていくということですか。

(委員長)

そうです。1回でヒアリングできるのは5補助金くらいです。各委員1つずつヒアリング対象を選べばいいと思います。

(C委員)

あらかじめ事務局にヒアリングをしたい部局を伝えておくということです。

か。

(A 委員)

資料を事前に送ってもらい、次回、全員でどこをターゲットにヒアリングをするといった議論をしてはどうでしょうか。

(B 委員)

私も A 委員に賛成で、120 を超える補助金の一覧をすべて事前に読んで判断できるか自信がありません。

(D 委員)

各委員同士、ヒアリングが重なる補助金も出てくると思いますので、一度全員で読む機会が必要ではないかと思います。

(委員長)

では、今回はその一覧をもとに議論するというのでよろしいでしょうか。

(A 委員)

前回の点検シートの点数を一覧に掲載してもらえるとありがたいのですが。

(B 委員)

確認ですが、事務局が作成する資料には補助金名称があり、前回の点検シートの点数を掲載し、ヒアリングしたものだけ委員会の意見、見直し結果があるということですか。委員会で取り上げられなかったものについては、点検シートの点数だけがあるということですか。

(小川財政課長)

前回は、個別に担当課を呼んでヒアリングをしたのは 23 事業ですが、すべての補助金について各委員が目を通し、意見があればいただいています。中には意見として問題がないという補助金もあるので、それについては資料上は空白ということになります。

(委員長)

できるだけ簡潔明瞭をお願いします。当日配布では委員会が動かないので、できるだけ早く送ってほしいです。

各委員には自宅学習となり申し訳ないですが、委員会までに自分の意見をまとめていただけると委員長としてありがたいです。ご協力をお願いします。

(終了 : 16 時 53 分)